

舗装工事における安全確保

広島県土木施工管理技士会
株式会社 岡本組

大野 裕次郎
Yujirou Oono

1. 適用工種

工事概要は、路盤工1,700m²・表層工5,700m²（そのうちオーバーレイ4,000m²）の舗装補修工事であった。現道の切削オーバーレイ部と切削後、路床の改良・路盤の順序で施工を行い、続いて表層工・区画線工を行う工事であった。

作業をする上で、より明確な安全管理について考慮し施工を行った。

2. 問題点

舗装工事において、現道の道路を補修する維持修繕工事では、一般車輛の交通の確保・通行する人の通路の確保が重要になる。誘導員・安全施設の設置を確実に行うことで、第三者災害の防止に努めるのが原則である。

ところが現場作業内では作業に夢中になってしまい、作業員と重機械等との接触事故の発生する可能性が高い。①とくに多い事故例としてローラーの後方への移動の際、ローラーの下側が運転手から死角となり作業員・誘導員と接触する事故が多い。

②また、ダンプトラックで材料の荷降ろしの際には誘導員が明確になっていないこともある。

③さらに、この現場では電線が横断しているため電線への注意が必要であった。

3. 工夫・改善点

①通常タイヤローラに安全補助装置を取付け、タイヤローラの後進時に障害物や作業員がいる場合感知し、警報音と警報ランプの両者により危険を知らせた。（写真-1、2）

②材料搬入時（路盤材の搬入の際）には、通常誘導員を配置し誘導を行うが、誘導者を明確にする為、ヘルメットに蛍光色のメッシュのキャップを着用することで運転手から確実に視界に入るようにする。（写真-3）

③頭上にある電線には、誘導員及び運転手が目視にて安全を確保できるように、荷降ろしの場所に旗を設置して注意を促し、安全確保の再確認を行った。（写真-4）



写真-1



写真-2



写真-4



写真-3

4. 効果

日常の安全管理に加え、更に上記3つの安全面への工夫をすることで、作業の効率・現場作業員への安全への認識の向上効果がうまれた。コストも少なく済み、現場での少しの工夫により快適な現場環境にすることができた。

5. 採用時の留意点

施工条件に関係なく、どの現場にでも簡単に対応できる工夫である。